

## **十和田湖ヒメマス：生命の循環**

### **和井内ふ化場の設立**

和井内貞行は、成長したヒメマスの大群が産卵のために十和田湖に帰ってきた翌年の 1906 年、ここ生出に和井内ヒメマスふ化場を完成させました。彼はなぜこの場所を選んだのでしょうか。それは、十和田湖に流れ込む 70 ほどの水流のうち、ここ生出の水流だけが、北海道でのヒメマスの生育環境に近い 8℃の低温を常に保っていたためでした。和井内のふ化場はその後拡張され、2002 年まで使われていました。この建物を出てすぐのところにある現在のふ化場の敷地内には、今でも当時使われていた池が残っています。

### **十和田湖ふ化場**

十和田湖ふ化場は 2002 年にオープンしました。十和田湖増殖漁業協同組合によって運営されており最新のテクノロジーを備えたこの施設では、毎年約 70 万尾のヒメマスの稚魚が湖に放流されています。十和田湖ふ化場は和井内貞行の偉業を後世に継承することに誇りを持っています。

パネル 4 枚目「4. ヒメマスふ化事業、十和田湖ふ化場について」②

### **ひめマスふ化事業の流れ（1年のサイクル）**